

平成19年4月15日(日)

自転車競技専門部常任理事会 技術・審判委員会資料

技術・審判委員会 (平成19年4月14日 13:00~17:00)

委員長: 福田、副委員長: 川手、委員: 河田、堤谷、 常任理事: 松島、矢野、寺崎

報告事項

- 1 技術・審判委員3名の選出について 保留(各ブロック等から適任者要推薦)
- 2 技術・審判委員会引継ぎ
(平成19年4月14日 10:00~12:30)
- 3 技術・審判委員会仕事分担について
委員長: 全国大会に関わる、競技規則解説、その他 福田
副委員長: 委員長補佐 川手
インターハイ担当: 委員長とともに関わる 河田
選抜大会担当: 委員長とともに関わる 堤谷
常任理事: 相談、意見
- 4 大会確認事項廃止に伴う、大会特別規則について
 - (1) インターハイについては、実施要項を参照。技術・審判として必要な特別規則については、検討後ホームページで流す。(ブロック大会以前に流したい。) 競技規則解説については、前委員長の協力のもと、委員長が集約し、流す。
 - (2) 将来的には、基本的な大会参加への流れは、競技解説で情報を流す。その大会のみに適用される、特別規則のみを大会特別規則として流していく。今年度は移行期間として、大会特別規則にも基本的事項もある程度盛り込む。
 - (3) ホームページに流していく手順を、総務委員会と協力のうえ確立する。

協議事項

- 1 競技について
 - (1) タイム制限を与えられた種目の補欠起用について。他選手に与える影響。
提案 学校卒なのか、本人卒なのか→補欠の申請タイムにより認める。
決議 インターハイは、従来通りで行い、選抜大会は、申込用紙にその内容を盛り込む。
 - (2) ポイントレースの最終復帰について→解釈の確認→新ルールとの整合性。
提案 復帰の認識:トラックに戻るのか、元いた集団の位置に戻った時なのか。
決議 元いた場所に戻ったとき。言い換えれば、認められた周回以内に元いた場所に戻らなければ復帰と認められない。(審判団の対応の統一が不可欠である。) 最後の1km以内に元いた位置に戻れないと判断したとき。→ポイント認める。判断は、審判団(観察、審判長、判定員)が行う。(様々な事例の検討)

(3) インターハイについて

提案 実施要項が発表されているため、その事項と実際の審判業務に関わる特別規則作成、発表する。(ブロック大会以前を目安とする。) 決議

※インターハイの競技運営の流れについて→委員長中心に流れを作る。

※競技委員長候補：川手さん 審判長候補：坂井田さん

(4) 選抜大会について

提案 昨年度の選抜大会の状況や反省事項から、小倉での開催を前提に次の事項について検討した。

①女子種目増設について、スプリント、スクラッチを検討(競走種目の導入)
増設の問題→時間、出場人数

提案 スクラッチ女子 12～15人 予選4km、決勝6kmを行いたい。
出場枠について500m、2kmIPを制限し、一人2種目とする。

決議 導入の方向で有るが、詳細継続検討

②スクラッチの1レースの人数について検討(参加者数の関係)

スクラッチ男子人数→周長、幅員を考慮して決定したい。

提案 今年度の、決勝は、18人から20人で行う。 決議

③スプリントのトーナメント出場人数について検討(参加者数の関係)

12人予選上がり→16人予選上がりではどうか。

提案 時間の関係、ルールの解釈、勝ち上がりの割合から、12人予選上がり

決議 従来通り12人予選上がり

④番組編成作業について、参考タイム記入不備で作業できない。

提案 総務委員会に参考タイムの記入の仕方の工夫をお願いしたい。 決議

⑤ロードレースフィニッシュラインの変更を行う。

継続検討

※番組編成会議の流れを委員長中心に確立する。

※競技運営委員長：山口さん(理事長) 審判長候補：高畑さん

その他話し合った内容

- 1 ドーピング検査の導入について、今後どうするのか検討。→継続検討
- 2 支援スタッフについて→未検討 坂井田さんや学連・実業団の方へ協力要請
- 3 学連・実業団との審判交流について→インカレ：1～3名 日韓対抗：なし
- 4 他団体所有の機材の借用について→予算との関係、役員参加の関係
- 5 選抜大会での選手データの取り扱い→強化委員会と協力し大学に依頼してはどうか。
- 6 全国合宿等への協力→会場地、委員のスケジュールにより協力委員を決定する。
- 7 技術・審判委員は、大会役員として参加できる配慮をお願いしたい。
- 8 総務委員会、強化委員会との連携→よろしくお願い致します。

文責 技術・審判委員長 福田 俊彦